近代詩文書最優秀作品　（8月15日締切分）

北澤翠香先生選評



郷間大悠　推選　墨と紙が融合した、重厚で多彩な線の表現が響き合い、懐の広い字形が輝きを放っている。観る者を圧倒してやまない力量、作者の心情の豊かさに脱帽する。

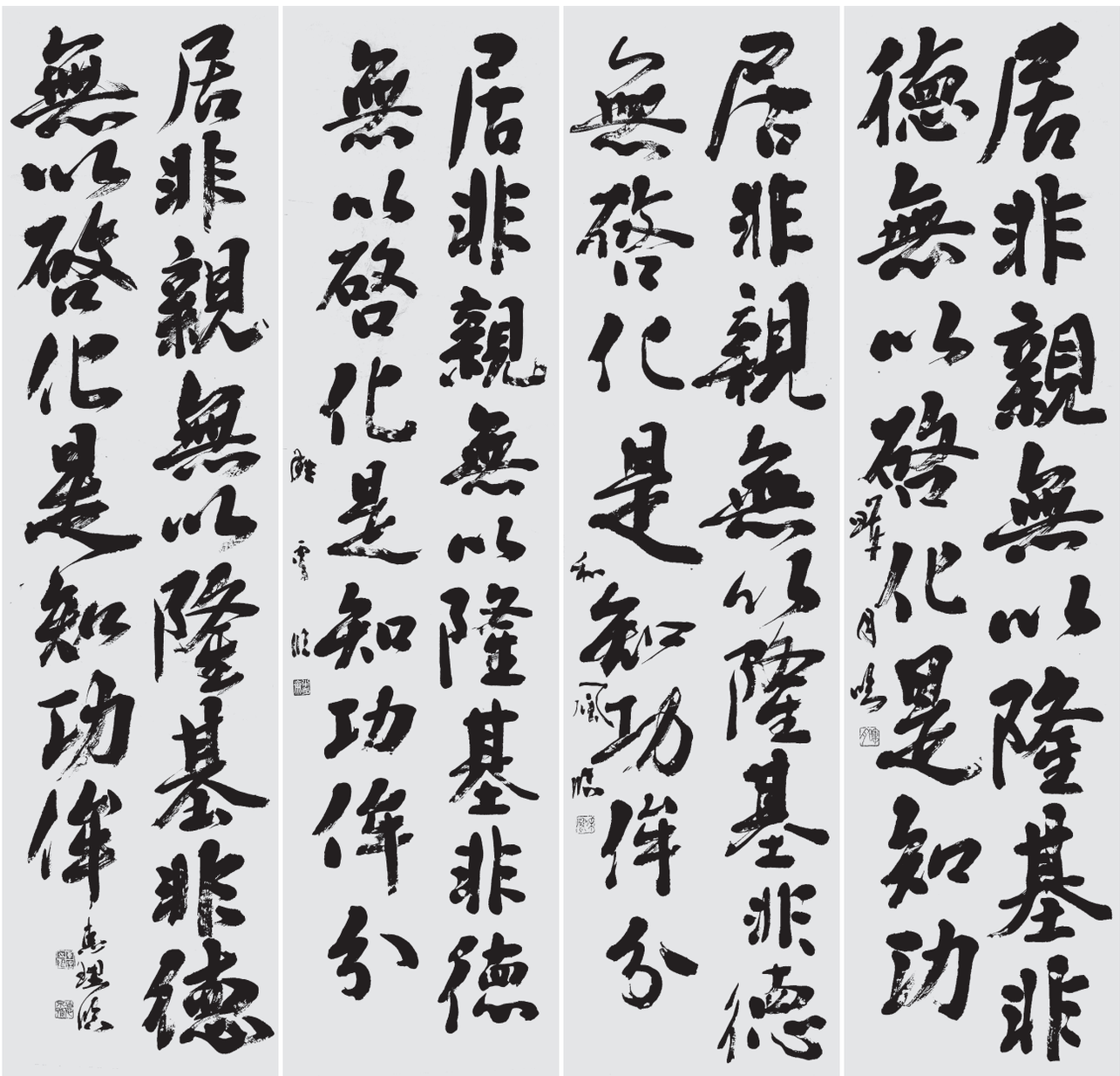
久保雅峰　推選　筆を自由自在に操り、生命力ある躍動した線条が通貫して、心地よく「雲」「発」で、ピタッと収まり、見事である。作品制作に精通した者の醍醐味である。

蜂須賀穂洋　推選　運腕大きく軽快な力強い鋒先のバネを効かせた一気呵成な妙技に、参考作品を彷彿させます。圧倒的な自然の雄大さの句表現に、苦慮なさった作者の熱意迸る。

森山蒼越　推選　衒いのない筆捌きで、自然体の造形が一貫して流れ、気負いがなく、魅力的です。素朴の味わいでの表現力は、長年の修練の極みです。流石ですね。「ペ」ご注意を。

漢字条幅最優秀作品　（8月15日締切分）

藤田壽樹先生選評



鈴木暉月　推選
原帖の特徴であるどっしり大らかな運筆の中に落ち着いた健康的な風趣を見事に表現。揺るぎのない強い線で堂々としている。完成度の高い自然体で目を惹く作。

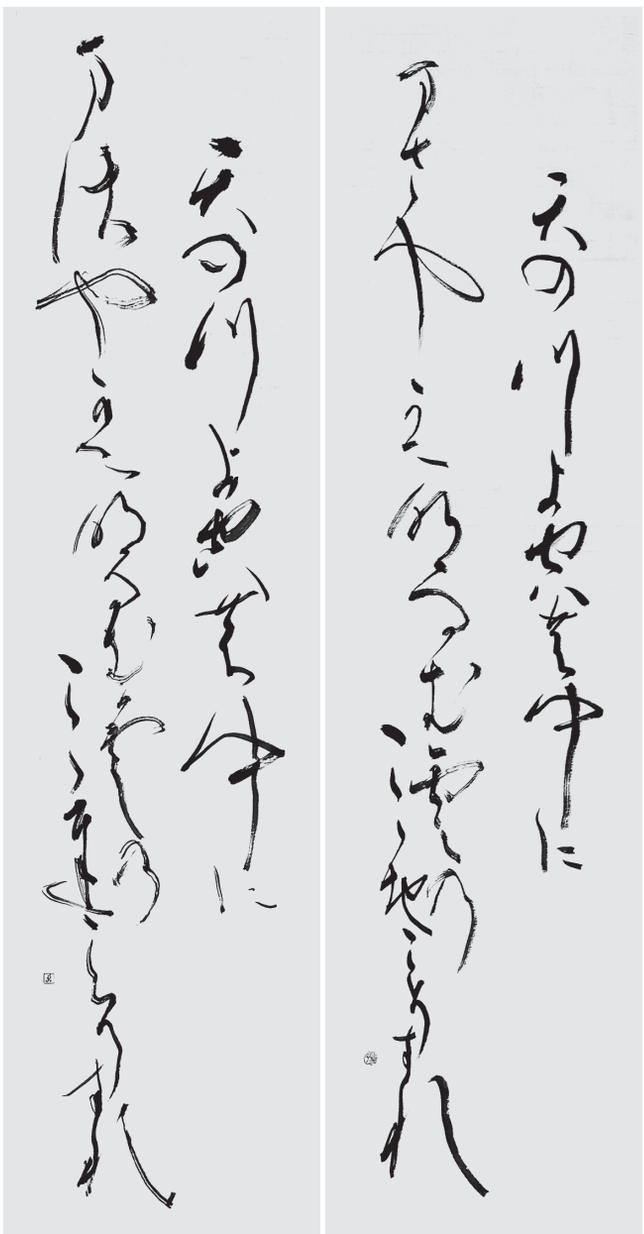
大澤和風　推選
深い沈着した中にも軽妙な線が引き立つ。また点画の連続や脈絡が冴えわたり心地良い。全体に静謐な雰囲気に満ちて味わい深く、洒脱感があって素晴らしい。

渡辺雄雲　推選
参考作品を基に水平感を強調した書きぶり。安定感に富んだ自然体は穏やかで上品な感じ。全体の収め字間行間なども見事に決まり美しい仕上がりとなった。

浅野恵理　推選
用紙にも意を用いた遒勁の作で印象深い。自信に満ち溢れた緊張感の持続した線は正面を向いて説得力のあるものになっている。落款も素晴らしく秀逸。

かな条幅・かな半紙最優秀作品　（8月15日締切分）

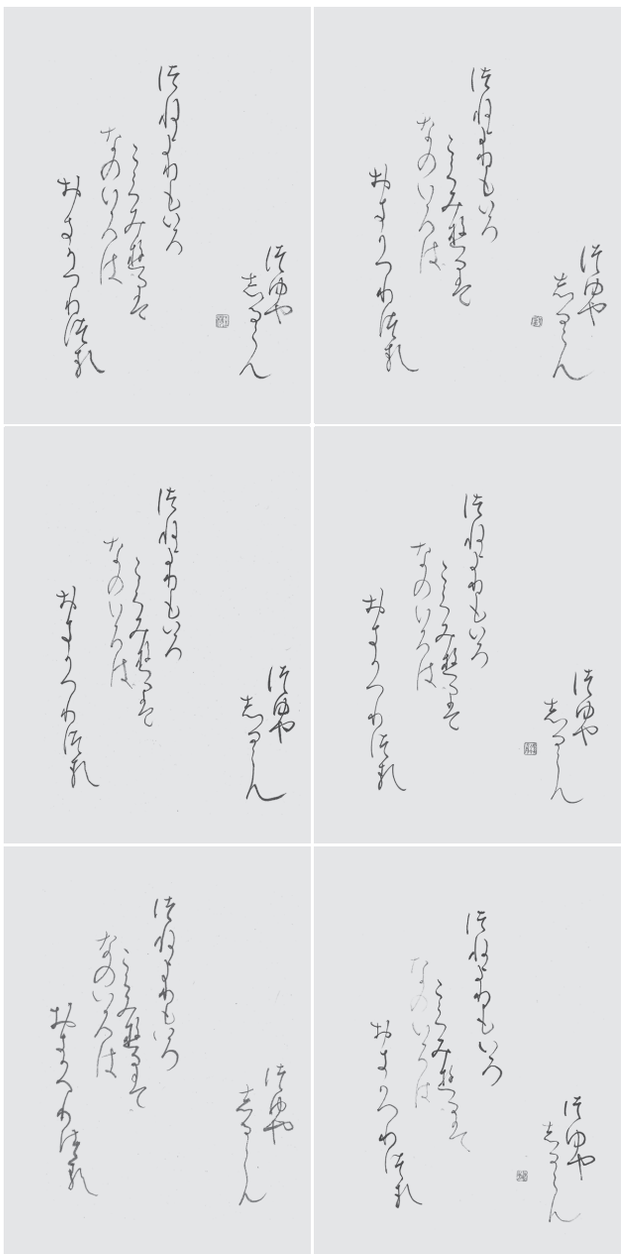
露﨑桂子先生選評



荒田芳子　推選
伸びやかな筆線で自分のリズムで気持ち良く書かれています。行の響き合いも良く、安定感のある作。潤渇の変化がややあると、更に印象深い作になるでしょう。

東谷美子　推選
勢いのある運筆で書き進めていて、迫ってくる様な存在感のある作品。文字の大小の変化も良く、三行目がピッタリ紙面に収まっている。「中」は、やや小さめに。

笠原博子先生選評



村田春朧　師範
原帖としっかり向き合い、その特徴をよく捉えています。墨の推移や行間のとり方も的確に表現されていて完成度の高い作品です。

岩崎玉楊　八段
ご自身の呼吸で、次へ次へとリズミカルに書き連らね、引き締まった筆線も美しい。心地良い流れからせせらぎが聞こえてくるようです。

林溪舟　師範
筆管をしっかり立てて、引き締まった筆線が美しい。リズム良く繰り出される文字の流れと墨色とが相俟って余白が輝いています。

石﨑弘美　準八
慎重な書き出しから、徐々に気持ちがほぐれ、リズム良く筆が動き出しました。最後にはご自身のものとされ、筆線も美しい見事な作品です。

風間真歩　準師
少し濃い目の墨色と潤渇、行間の工夫で白がきれいに表現されています。臨書から作品創りのコツも学ばれ、一枚の作品に昇華しています。

レミアグレ　六段
筆先まで気持ちが行き届き、タッチの強弱、リズムもよく心得ていらっしゃいます。落ち着いた筆の運びは正に日本の心を体現されています。

漢字半紙最優秀作品　（8月15日締切分）

髙野清玄先生選評



長縄祐子　師範　羊毛筆による渇筆が線に変化をもたらし作品に動きと立体感を表現した。柔らかく温和な線質はゆったりとした運筆から成り優しさに包まれる。

中山河羽　準八　やや側筆なるも筆毛を活かしての切れ味のある線がすっきりと表現され、目が覚める様で心地良い。金偏左払いは太さ重さがあるとバランス良し。

大竹百香　師範　重厚ながら良く動いており紙面全体に顔真卿の憤りが表現され観る者に伝わってくる。墨量多く運筆の速度による潤渇の変化が素晴らしい佳品。

稲田理美　六段　素直な線がリズムに乗って迷いなく書き進められ気持ちが良い。文字は大きく小さくあるべき所に収められ自然な流れが美しくホッとできる。

神戸煌峰　師範　筆先がしっかりと立ち上がり紙面を捉えている。深みを感じる隷書の線が紙いっぱいに走り伸びやかで健康的である。直線的な動きが良い。

佐藤文遊　七段　直の線が全体を統一しており細身ながら深く安定感のある作品に書き上げられた。右払いが自然に伸びており美しい。「銘」でしっかり受け完成。

小渕弥生　師範　やや細線であるが筆毛を開くことが出来る方で文字を書き進めながら筆を楽しんでいる。「此」の横画の渇筆が開いた遊び。書者の世界に引き込まれる。

北出桃菜　準四　逆筆逆入の筆遣いが自分のものとなり自然な動きとなっている。スピードの変化と共に筆に与えられた力が潤渇の変化ある作品として魅せる。

稲邉摩利子　準師　構え姿勢が大きく大らかな動きの「之」が魅力的。最終画少し苦しい。「銘」は筆毛の先を活かし紙面に突っ込んだ線が表され細太の変化も良し。

大野　詩　準二　筆を持つ手が柔らかい。羊毛を使いこなし筆毛の開閉も自由自在。温もりある線にて細太の変化を巧みに表現する実力は流石。「銘」五ミリ下げたい。

藤本英示　八段　間の取り方が上手い。字間に空間をとる余裕があるのだ。余白への響きが美しく作品を引き立てている。やや小さめの筆毛の運筆も絶妙である。

桜庭紅生　三段　顔真卿の抗議を受け止め自己の中で消化し半紙に表出している。粘り強い趣を線で表し直線的な強い意志が伝わってくる。線の深さも佳なり。